平成 24 年 度

八代市議会建設環境委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

1. 所管事務調査 …………… 1

平成 24 年 5 月 1 日 (火曜日)

建設環境委員会会議録

平成24年5月1日 火曜日

午前10時03分開議

午前11時50分閉議（実時間106分）

○本日の会議に付した案件

1. 所管事務調査

- ・生活環境に関する諸問題の調査
（八代市環境センター建設事業の進捗状況
について）
（ごみ非常事態宣言後の状況について）

○本日の会議に出席した者

委員長 田方芳信君
副委員長 堀口晃君
委員 大倉裕一君
委員 田中安君
委員 中村和美君
委員 橋本幸一君
委員 増田一喜君
委員 松浦輝幸君
議長 古嶋津義君

※欠席委員 植原勉君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

環境部長 福田晃君
環境部次長 宮川正則君
環境センター建設課長 小橋孝男君
環境センター建設課
副主幹兼環境センター
建設係長 南浩一君
環境センター建設課
主査 豊田浩市郎君
ごみ対策課長 山口剛君

○記録担当書記 寺原哲也君

（午前10時03分 開会）

○委員長（田方芳信君） 定刻となり、定足数に達しましたので、ただいまから建設環境委員会を開会いたします。

本日は、生活環境に関する諸問題の調査を議題とし、調査を進めます。

◎所管事務調査

・生活環境に関する諸問題の調査（八代市環境センター建設事業の進捗状況について）

○委員長（田方芳信君） それでは、八代市環境センター建設事業の進捗状況について、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

○環境部長（福田晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、福田環境部長。

○環境部長（福田晃君） はい。おはようございます。（「おはようございます」と呼ぶ者あり）ゴールデンウィーク中の貴重な時間とは承知しておりますけれども、早急に報告すべき事柄がございましたことから、委員長に開催をお願いいたしました。

八代市環境センター建設事業におきます重要な事項でございます建設や管理運営等の手法について、これまで協議を重ねてまいりましたので、その進捗状況等について担当課長の小橋が説明申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 小橋環境センター建設課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） おはようございます。（「おはようございます」と

者が決まればというふうなスケジュールで今急いでおります。

続きまして、2ページ目に入らせていただきます。

先ほど、事業者の選定というのを来年の夏までぐらいにという目標を御説明しましたが、その発注方式の比較を書いたものでございます。

まず、右側が通常の発注形態です。現在もっております。仕様発注という名称をつけております。流れといたしまして、最初に基本計画や基本設計を行います。これは職員が行ったり、コンサルタントが行ったりしております。それから、続きまして、この中身を決めます実施設計、通常、設計書と役所では言っておりますが、設計書、それから図面、数量、そういったものを設計書と言っておりますが、それを作成いたします。これも職員またはコンサルで行います。続きまして、入札手続に入っておりますが、この場合、現時点で一番多く採用されておりますのが指名競争入札または一般競争入札です。そこで、価格で事業者が決定してまいります。事業者が決定しますと、契約を結びます。契約を結んだ後、現地の工事というステップを踏んでまいります。

今回の発注は、左側書いております性能発注方式をとります。ここで違いが、まず大きな違いがございます。基本計画・設計を職員やコンサルが行うんですが、この後、実施設計という項目が丸々抜けております。この実施設計をなぜやらないかというのは、これから説明していきんですが、事業者が決まった後、事業者がこの実施設計を行う、左下に書いてありますが、契約した後に実施設計、工事という欄がございます。ここが大きく違うところを御認識いただければと思います。それから、契約方法につきましては、今回、総合評価方式による一般競争入札というのを行いたいと考えてお

ります。これは、事業者からの提案を有識者による総合評価にて点数づけによって最優秀選手を決めると、最優秀業者を決めるというふうな手続です。内容は、価格面と非価格面などを割合を設定いたしまして、この合計点数で建設事業者を決めていくというふうな手続です。決まりました後、業者は、この実施設計を自分たちで行いまして、形や機能、それから動線、そういったものを決めてまいります。そして、現地に工事として入ってまいります。今回もう一つですが、この総合評価方式の一般競争入札を行う際に、真ん中に書いてあります、PFI法に準じてDBO方式を選択して、八代市の事業方式としてDBO方式を選択すると。その際に、この総合評価方式にアドバイスをするアドバイザー業務というコンサルタントを決めます。総合評価の会議の回数が6回から8回と書いておりますが、その6回から8回へ、資料をつくらったり、それから法律的なアドバイス、それから財務的なアドバイス、それから建設的なアドバイス、環境面のアドバイス、いろんなアドバイザーをこのコンサルタントを抱えることとなります。抱えた人たちがアドバイスを担当ごとにしていくというふうになります。この総合評価で決める際に、有識者の、大学の先生方が中心になるんですが、その方々へいろんな御意見やアドバイスをできる立場にいるというふうに考えていただいて結構です。

それでは、その詳細に入る前に、次の3ページをお開きいただきたいと思います。

今、契約方式の種類について、総合評価方式について触れましたが、ここには現在、八代市で行われております4つの指名競争入札から企画競争型随意契約方式までの4つの方式の違いを書いております。ここで、八代市が行います、今後とっていこうとしてる手続について、左3つですね、指名競争入札、一般競争入札、それから一般競争入札の総合評価落札方式、こ

の3つの中でこの環境センターの建設事業者を決める方式を検討してまいりました。契約検査課の皆さんとも一緒に庁内プロジェクトで検討してきたんですが、この3つ目に書いてあります一般競争入札の総合評価落札方式で環境センターの建設事業者を決めていこうというふうに考えております。

それから、一番右側のプロポーザル方式ですが、これは今回、先ほど御説明しましたアドバイザー、総合評価委員会の委員の皆さんにアドバイスをする、それから八代市に助言をする、そういったアドバイスをするアドバイザー業務を発注するんですが、その入札形式はプロポーザル方式をとりたいと考えております。

ここに、次に決定方法なんですが、指名競争入札は価格面です。価格面のみです。それから、一般競争入札も価格面のみの決定方法です。それから、一般競争入札の総合評価落札方式は価格プラス非価格要素を加えたものです。ここをちょっと読ませていただきます。総合評価落札方式ですが、一般競争による契約に関する公告を行いまして、競争に参加した者のうち、入札価格に加え、性能、機能及び提案を総合的に評価し、発注者にとって最も有利な者を落札者とする契約方式でございます。ここで、価格だけで決めませんので、点数化して、その第1位の業者さんと契約を行うという形をとってまいります。それから、一番右側のプロポーザル方式は、今度は全く違いまして、コンサルタントを決める際に、非価格、全く価格要素を反映させない。内容をちょっと読ませていただきます。企画の公募をし、競争に参加した者のうち、企画内容が最もすぐれた提案を行った者を契約の相手方として特定し、随意契約を行う契約方式であると。今回は、今度は価格は全く考慮せずに、点数、提案に対しまして委員の皆さんが点数をつけまして、その最優秀者と随

意契約を行うというふうな決め方でございます。これは、とりもなおさず、なぜこういうふうな複雑な手続をとっていく方法を環境省が推奨してきたかと申しますと、もう御存じのとおり、先ほどの2ページにちょっと戻っていただきたいと思うんですが、この中で、先ほど、仕様発注の流れの中に、基本計画・設計の後に実施設計という項目がございました。このときに、環境センターほどの大きさの、規模の大きい事業になりますと、当然コンサルタントに設計をこれまでさせてまいりました。この設計をする際に、あるメーカーの資料を当然使わないと図面ができません。確実に中身を決めていくことになりますので。そうしますと、その図面を提供したメーカーがほぼ100%落札しておいたという現状がございます。ここにどうしても談合が生まれてしまったということで、左側の性能発注のラインに、この実施設計というのがスタート時点で消えてしまったというところなんです。ですから、落札業者を決める際に役所が設計書を持ちませんので、設計内容を持ちませんので、役所からは何をするかといいますと、実施方針と要求水準書という2つの項目をメーカーに伝えます。それに対してメーカーは提案してくることになります。それを総合評価委員会で判定していただきまして、最優秀業者を決めるというふうな流れになってまいります。

それでは最後に、今までの流れを整理した表をつけております。

4ページです。

まず、左上の処理方式の決定でございますが、これは御存じのとおり、処理システム検討委員会の中で提言がございました全処理方式の中から、八代市にふさわしい処理方式を、焼却方式がストーカ式、ガス化溶融方式ではシャフト式か流動床式、2方式3機種を提言していただいております。これから建設事業者を決めて

いくまでに、この2方式3機種のまま事業提案をしていただきたいと考えております。

それから、先ほど言いましたDBOという言葉が出てまいりましたが、事業手法の決定をしております。決定までの経緯ですが、比較対照事業手法が公設公営方式、それから公設民営方式、それから民設民営方式、この3手法で検討してまいりまして、八代市にとって一番有利な手法は何かということで議論を重ねてまいりまして、右側に書いております公設民営方式のDBO方式というのを決定いたしました。中身は、設計、建設、運営まで一つの流れで行っていただくということで、この運営も20年間、長期にわたって契約を行うというふうになります。ただし、この段階で設計と建設と運営は事業者が行うんですが、資金につきましては公、つまり八代市が用意すると。その際の資金源は交付金でありましたり、合併特例債でありましたり、それから一般財源でありましたり、そういったものを八代市が用意するということがあります。その言葉の流れから、公設民営というような言葉になってるかと思います。

それから、先ほど言いましたアドバイザー業務委託の位置的なものです。役割と申しますか、そういったものを書いております。この中で、一番右側にアドバイザー業務委託とはということで説明を加えております。真ん中の一番右側です。アドバイザー業務委託、総合評価を行うに当たり、本市の意向を踏まえ、それに対する助言及び企画・立案を市へ提供する。また、PFI法の手続に伴う各種情報収集及び資料作成支援や総合評価委員会（事業者選定委員会）の会議資料の作成支援を行う。さらに契約締結に伴う各種書類作成支援を行う。これが主な業務内容でございます。ですので、この人たちが、アドバイザーを行うコンサルタント会社が総合評価委員会に関係しているということではございませんで、この総合評価委員会を支

える、アドバイスをするコンサルタントであるというふうに御認識いただければと思います。

それから、一番下に建設事業者を決めていきます流れを書いております。まず、先ほど申し上げました実施方針を八代市が出します。こういうものを建てる、こういうふうに建ててください、こういうふうに関防協定は守ってください、それから焼却灰の処理につきましてはこのような会社を探してきてください、処理方式を検討してください、そういった細かいところを言葉で条件をつけてまいります。それを実施方針の公表を行います。公表しますと、今度は特定事業の選定から事業者募集、ここが俗に言うメーカーさんに手を挙げさせていただき入り口になります。この事業者募集を行いますことで、これはホームページ等で行いますので、これを見て、八代市の事業に参加したいという方がいらっしゃれば、この業者さんたちが事業者として手を挙げてこられます。それから事業者提案が、今度は手を挙げられた業者さんが提案書をつくってまいります。この提案書を次に書いてあります。先ほど言いました事業者選定委員会、俗に言う総合評価委員会なんですが、この委員の皆さんの前でプレゼンしていただくなり、書類を見ていただくなりして評価をしていただきます。その評価で最優秀事業者が決まるというふうな流れになってまいります。そして八代市は契約をするというふうな形になってまいります。現時点では、まだ正式には決定しておりませんが、外部有識者を10名程度予定しております。

時期的なものはこれから検討してまいります。先ほども申し上げましたが、建設事業者が決まりますのが、来年の夏までには何とか決めたいと思います。その後の建設期間が十分とるためにも、来年の夏までに決めないと、27、28年度の建設事業が少なくなることになるのかなというふうにも懸念しております。

以上ですが、簡単でございましたが、説明を終わらせていただきます。

○委員長（田方芳信君） 済みません。ちょっと小会いたしますので、ちょっとお願いいたします。

（午前10時25分 小会）

（午前10時26分 本会）

○委員長（田方芳信君） 本会に戻します。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 先ほどの説明の中で、1カ所間違っておりました。訂正をお願いいたします。

私、総合評価方式で、価格面と非価格面で点数化して最優秀事業者を随意契約すると申し上げましたが、これは間違いでありまして、一般競争入札方式ですので、これは契約となります。随意契約ではございませんで、一般競争入札による契約となりますので、ちょっと随意契約という言葉はプロポーザル方式のみを使いますので、そこをちょっと訂正させていただきます。申しわけございません。

○委員長（田方芳信君） じゃ、本件について、何か質疑、御意見等はありませんか。

○委員（田中 安君） 済みません。

○委員長（田方芳信君） 田中委員。

○委員（田中 安君） 一番最初のね、用地取得協議ということの中で、説明があったとだけ、基本的には国有地の部分については、竣工手続も終わってないという中で、口だけの話し合いを事前協議としてやってるといことなんだけど、実際問題として、この竣工手続というのは、めどはあつとですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） はい、小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。ちょっと、今ちょっと手元に詳しい協議事項を持ってきてないんですが、おっしゃるとおり、非常に不安定です。

といいますのが、これは例えば、環境アセスメントが終わることが確実ですかとか、それから港湾計画の変更が確実に行われますか、すべてが仮定で進めております。したがって、港湾の変更の手続が終わらない限り、委員が今おっしゃったとおり、未竣工地を竣工地にできないんだそうです。ですので、一筆いただけませんかと私お願いしたことがございまして、しかし、書けないとおっしゃるんですね。向こうも口約束はできない。しかし、一つ一つの手続を踏んでさえくれば、土地はちゃんと売ってあげるよとおっしゃるんですけども、確かに現時点で確約されたものは一つもございません。

（「そうやろうね」と呼ぶ者あり）が現状です。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

○委員（田中 安君） はい。

○委員長（田方芳信君） 田中委員。

○委員（田中 安君） 言われたとおりなんです。こういうふうな不確実なことを見込み発車してきているわけなんだけど、実際問題とすれば、もっと確定的な場所に計画は始めぬといかぬだったんじゃないかなというふうな反省を今してるとこなんです、そっでよかつですかねと思うて。もうやり直しはきかぬとでしよう。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。もうおっしゃるとおりです。私たちにも時間もございませんし、これから場所を探すという心の余裕もございませんので、ましてや今の中北の現状を考えますと、この土地でいかせて

いただくしか、もう今の八代市にとってはないと考えております。(委員田中安君「はい」と呼ぶ)

○委員長(田方芳信君) よろしいですか。

○委員(田中安君) はい、いいです。まあ、だから、頑張ってください。

○委員長(田方芳信君) ほかにありませんか。

○委員(中村和美君) いいですか。

○委員長(田方芳信君) はい、中村委員。

○委員(中村和美君) はい。関連ですが、不確定じゃなくて困るけんか、市長みずから、東京行ったとき、何度でもな、連れて行って、国交省か、それと県と、頭下げることだと思っよ。

いろいろあったときに、新幹線のね、川内と、今、熊本のあそこに新幹線車両基地がでけとっばってん、そこらの市長さんは何さっさんだったけん、もうえらい川内と、あそこは何か、熊本の、あの町長さんたちは毎日んごと、国交省だったかな、鉄道運輸機構か、通いよった。だけん、あそこ決まると、そういう話を我々、新幹線建設計画等調査特別委員会で肥薩おれんじ鉄道と新幹線の勉強会を特別委員会室でつくったときに、川内の議長かな、言ったとは、私たちは毎日んごと行きよりましたて。八代なんて、そがんとしてなかったもん。だから、誠意が伝わらずに、富合と、大体八代が真ん中だから、大体あそこ、八代につくるのが当たり前のこっだっただろけけど、そういう熱意でな、でけましたて本人たちはおっしゃったったけんか。

もうこれはもう、今田中委員おっしゃったけど、ほかに今からするちゅう、もうがたんきて、もう三十四、五年もたって、もう危ないのがわかるとるけん、ここ一本、もう絞っていきなっせ。そして、市長は行ったときは、もう行くたんびに、この関係部署には頭下げのように

引っ張って行くようにお願いしておきます。

○委員長(田方芳信君) はい。ほかありませんか。

○委員(増田一喜君) はい。

○委員長(田方芳信君) はい、増田委員。

○委員(増田一喜君) 事業者選定委員会で、これは外部の有識者等10名ちゅうが、これはだれが有識者委員会のメンバーか、これは公表されるんですか。一番、私が心配するのは、この方式の中でですね、ずっと流れの説明があったけども、ここで一番大事なかなというところは、談合ですね。談合のところ。だけん、総合評価方式のやつと、それからプロポーザルの方式は、もう可能性を排除できるというふうになつとるけども、この流れからいくと、結局、実施計画ですか、実施設計かな、これから談合の可能性が非常に出てくるというとき、だけん、それを阻止するために、ここを抜いて、総合評価方式で相手を決めていくというけれども、そのときに、今度は逆にですね、業者さんとの接点はないのかもしれないけれども、評価委員の人たちとの接点が出てくるとまずいかなというところがちょっと。そのあたりは、そういう談合が入る余地がないような、やっぱり備えちゅうのはあるんですかね。

○環境部長(福田晃君) いいですか。はい。

○委員長(田方芳信君) 福田部長。

○環境部長(福田晃君) はい。今御懸念の点はもっともだと思います。どうしても総合評価によりますと、委員の氏名は公表いたしますのでですね、業者さんが評価委員さんのところに行かれる可能性は十分あります。

ただ、私どものほうもそこを予防として考えておりますのは、そういうのは選定委員さんのほうでですね、こういう業者が来ましたとはつきり言ってもらえば、その業者はその時点でもうオミットしますので、そこは言っておりま

す。そこは当然考えております。

ただ、委員の先生方すべてちゅうかですね、ある程度、やっぱり学校の先生方が、専門の方が入りますので、もしその業者さんがですね、自分たちの単純に今度のこの事業のことじゃなくて、会社の方針として、こういうところを勉強、産学とか共同で研究されてる部分、その部分はもうしょうがないと思うんですけども、これに関します、入札に関しますことですね、ちょっと便宜を図っていただきとか、そういうのがあった場合、当然私どものほうは、当然それはもう業者さんはだめですちゅうことで、わかった時点で、その業者さんはもう入札対象から外すとか、当然、損害賠償とか、そういうのが出てきますので、そこはないようにと一応考えております。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 事業者さんが、その選定委員さんたちに接触してくるちゅうこともあるでしょうけど、それ以外の、業者さん以外の人間も接触するちゅう可能性が十分あるかなと思うけど、そこらあたりも、この選定委員さんのほうには十分お願いして、そういう接触を避けていただくと、終わるまでですね。そういうところも依頼しといてもらいたいという気はあります。（環境部長福田晃君「はい、わかりました」と呼ぶ）

○委員長（田方芳信君） ほか。

橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 確認ですが、今回については公設民営の方式でやるということですね。で、事業手法と処理方式は、そのまま、結局、事業者が選定されるまで、2方式——（「3機種」と呼ぶ者あり）3機種ですね、は、そのままずっと生きとるということですか。非常に、何ていいますか、DBO方式で、こういういろんな方式、燃焼式でやるということは、担

当部署も厳しいんじゃないかなという、その辺についてはどうですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 確かに、私たちも心配がないわけではございません。ただ、ほかの自治体も見てみますと、それから国の方針の中にですね、こう書いてあったんですね。逆に、私たちは1機種に絞ったほうがやりやすいと、決めやすいというふうに思ってたんですが、ある文献の中に、国が出した文献の中にこう書いてあって、要するに、談合防止するためにも門戸を広げなさいと、機種も。機種も門戸を広げて、複数機で行いなさいというフレーズがあったぐらい、この絞らない方法のほうが現実的だよというような表現がありました。

ただ、御心配される点数のつけ方、それから事業者の提案の仕方、それから焼却灰や溶融スラグのさばけ方、各社全部考え方が違います。ですので、私たちが最終処分場を持っておりませんので、その評価を一律にするという今回の難しさはあろうかと思えます。しかし、どうか、その評価基準をつくりまして、この2方式3機種のメーカーができるだけたくさん手を挙げていただけるような方策はとりたいと考えております。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 結局、DBOでやればバリュー・フォー・マネー、これはやっぱりきっちり、それぞれの方式でも出していかなぬといかぬということで、これについてはこの役所内でできますか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） は

い。これにつきましても、ここに手元に持っているんですが、これが庁内プロジェクトで検討した議事録です。それから、基本設計を行いました復建調査という会社があるんですが、そこも各メーカーからいろいろ調べまして、希望を聞いております。

要するに、総合評価方式の一番の難しさ、それからDBO方式の難しさは、長期に、先も見えないのに、普通は単年度契約するんですね、維持管理は。それを20年先まで総額を決めて、均等払いしていく方法なんですけども、じゃ、だれがそのリスクを責任とってくれるのかとなりますと、お互いがとるしかないんですね、八代市が事業者が。そこが今、全国的にDBO方式が一番多く採用されてる理由の一つとして、銀行から借りなくても資金は自治体を用意するものですから、建てて、維持管理費まで役所が財源を用意すると、その長期安定した稼働が可能であるというのが大前提であるものですから、リスクをどこまでお互い、大体フィフティー・フィフティーだろうと思うんですけども、何があったときはこうする、何があったときはどっちが責任とる、そういうふうなことをリスク分担をずうっと細かく決めていくものですから、今回のこのアドバイザリーの中に弁護士が入るんですね。弁護士と公認会計士、それから財務関係、そういった人たちがチームをつくって八代市にアドバイスをしてくれます。

そういった意味で、お互いが損をしないように、損をしたときはだれが責任とるかというのを決めていく、その契約書といいますか、決める事を決めまして、この長期契約というのに臨んでいくらしいんです。

ですから、DBO方式を決めましたときに、比較対照物は公設公営とPFI事業とDBO方式の公設民営ですね、この3つで、今おっしゃいましたバリュー・フォー・マネーを比較検討して、数値を出しております。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） ある程度、選定が出るんですか。（環境センター建設課長小橋孝男君「はい。じゃ、ちょっと細かいところですが、南係長のほうから御説明させていただきたいと思います」と呼ぶ）

○委員長（田方芳信君） はい、南係長。

○環境センター建設課副主幹兼環境センター建設係長（南 浩一君） バリュー・フォー・マネー、VFMなんですけど、まず算定根拠といたしましては、まず、今回の八代市の事業に興味がある方の民間事業者から意向調査ということをやしまして、その中で出てまいりました金額を押しなべて出した、金額を出してからバリュー・フォー・マネーを計算しておりますが、実際にその中で公設公営との比較しましてVFM、公設民営、DBOの場合が約6%、それとPFI手法でございますと約4%という、試算でございますが、今の段階ではそういった数字が出ております。

ですので、メリットが大きいDBO方式を選択をしたというような結果でございます。

以上、お答えとします。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） 大体わかりました。また、ある程度そういう決定の段階では、中間の報告というのもぜひお願いしたいと思います。

それと、先ほど、最終処分場の件ですが、非常にですね、八代市の場合、立場が弱いと思うんですね。やはり、いろんな、例えば処理業者とのいろんな契約においても、持っているところと持ってないところ、処理委託についても非常に弱い立場にあると。やっぱそこをどうクリアされるか。ある委員の人も、1年契約というような状況なんでしょう。それが結局、何といいますか、足元を見られてしまうんじゃないかという、そういう懸念が今あるというようなこともお聞きしてますし、その辺について行政とし

ては、その点はどうかとらえておられますか。

○環境部長（福田 晃君） はい。

○委員長（田方芳信君） 福田部長。

○環境部長（福田 晃君） はい。最終処分場、大変頭の痛いところでございますけども、議会の答弁の中でちょっと私もお答えしておりますけども、最終的には必要だと考えております。自分自身です。

ただ、どちらにしても、今度、この新しい環境センターが稼働してからでないと、次の段階へ入れないと思うんですね。焼却方式にいたしましたも、熔融方式にいたしましたも、出てくる最後の部分は、どうしても自分たちのところで処理せいかぬとはわかってますけども、実際それを最終処分場つくる段階で、市民の方々に、こういう灰ですよ、こういう熔融スラグですよということを実際見てもらいたいと思うんですね。でないと、最終処分場の場合はどうしても反対運動、もう大体普通どこでも起こりやすいものですから、それを見ていただいた後にですね、当然私たちも最終処分場のほうに、事業にかかりたいと思っております。

その関係です。ただいま小橋が説明しました中にもありましたけども、灰の処分先を10年とか何とかとありましたけども、その関係で10年とか、そういう形で、事業者選定の中です。条件の中に入れようかなという形で考えております。10年ぐらいはかかるかなと思っております、最終処分場の選定とか建設につきましては。

以上でございます。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） この方式でやるときの、運営の中で、その最終処分の灰の処理費も入るわけですか。それは外すわけですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） これはもう自治体の考え方です。我々は当然、例えば、焼却灰をセメントの原料で引き取ってる会社が長期に、八代市さんの灰はじゃ5年は大丈夫です、10年は引き取りましようかと一筆書いていただければ、もう安心してその間に最終処分場の候補地を探すんですけども、今現状の情報では非常に厳しいです。2年ないし5年というのがもう精いっぱいって言います。それだけ将来が見えないということです。今3カ所、大分と福岡と山口にあるんですが、エコセメントとかつくってるんですけども、引き取り約束といいますか、それをしていただけないのが現状です。

会社といたしましても、これからセメントを使う公共工事が激減してるのも事実です。ですので、全体の割合からいきますと、まだ焼却灰を原料としてのセメントの量ちゅうのは少ないらしいんですけども、今後それを拡張していくのかどうかはまだ会社として方針を出されてないみたいです。

しかし、私たちは、まずは今部長から説明がありました最終処分場ができるまでは、資源化するしか方法がございません。資源化をすると、焼却灰にしましても、熔融スラグにしましても、どちらのメーカーが落札されても資源化をするということが基本方針をつくりましたときの4本柱の第1位に挙げてるぐらい、この資源化というのを目指しております。

一生できればいいんですけども、そういうわけにもいきませんので、まずは10年、何とか資源化の方向で排出できればというふうに思っております。

○委員（橋本幸一君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） ということは、運営費の中には最終処分、灰の処理費は除けて理解していいんですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 2通り、やっぱり各自治体とっております。本来は自治体が交渉すべき内容です、これは。業者さんに、例えば、リサイクルできるとか資源化できる会社を探してこいてというのは、それは本来の姿ではないんですね。建設と現場の維持管理が本当の仕事ですので、その出先である処分先まで探してこいというのは、本来はいけません。本来、八代市が最終処分場をこの管内に持つておかなければいけませんので、それを県外の最終処分場を探してこいというのは、大体言うことすらできないことですので、よその県の皆さんは、皆さん怒られるわけですから、それは大体は自治体の仕事なんですけども、現状、リサイクルできますのが太平洋セメントか三菱マテリアルさんか宇部興産か、その点、限られてますので、そこと八代市がまずそこの市長さんに言って、御説明をして、まずこの会社に受け入れていただきたいと思うんですけどという交渉からこの仕事は始まります。それが成立した後に、（環境部長福田晃君「これば言わすとばい、これば言わすとばい」と呼ぶ）はい。ですので、費用が20年間のDBOの運営の中に入ってくるかといいますと、これからアドバイザーのコンサルさんたちと協議していくんですけども、入れるか入れないかをですね、考えたい。

しかし、基本的には、希望的観測ですけども、入れたいと考えております。10年分の委託料を。そしてそれを、条件をのんでいただける事業者に手を挙げていただければというふうに考えております。

○委員長（田方芳信君） 橋本委員。

○委員（橋本幸一君） じゃもう、今んところはまだ未定という理解していいんですね。（環境

センター建設課長小橋孝男君「はい」と呼ぶ）はい。途中の経過報告をまたお願いいたします。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。当初予算の中でも、アドバイザー業務委託という部分についても若干、時間の許す中でお聞きをしたことがあって、予算については可決をしたということで、なんですが、初めて、今橋本委員さんが質問されたところにおいて、弁護士さんとか税理士さんのチームをつくってというようなお話が出てまいりましたが、アドバイザー業務委託ってというのはどこ契約をするおつもりなんですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。ちょっと、ある文書を読ませていただきます。実はこれが、環境省が出してる入札の手引、廃棄物処理施設関係の入札契約の手引というのがございます。この中に、最初に申しあげました談合を防ぐ、それから公平公正な契約をするという大前提の中に、このアドバイザー業務という、コンサルタントの選定という項目がございます。この中にこう書いてございます。まずPFI事業を実施するには、前例の少ない煩雑な手続を踏む必要があり、金融、法務、廃棄物処理技術等の専門家からの多面的なアドバイスの提供を受け、実施する必要がありますと。そのため、実力のあるアドバイザーコンサルタントを選定することがPFI事業成功へのかぎとなるが、選定に当たりましては、PFIアドバイザーの実績のみには余りこだわらず、廃棄物処理施設の計画、建設事業についての十分な知識と経験を有するコンサルタン

トを選定する必要がある。選定に際しては、プロポーザル方式を採用し、また、既にPFI事業を導入した市町村等にも照会しながら、慎重に選定、契約をすることが望ましいという、こういうふうな実績を持ったコンサルタントさんが今回プロポーザル方式による入札に事業提案をされてこれらと考えると考えております。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。行政としては、そのアドバイザー業務委託という委託先をどういう形で選定、選定といえますか、募集されるんですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） プロポーザル方式の中で、約3回の選定委員会を開くんですけども、そこで、要するに資格ですね、それから実績、そういったものを公告いたします。ホームページにて公告をいたします。それに実績のある皆さんが、先ほど言いました、廃棄物行政に詳しくたり、建設事業に詳しくたり、それからPFIのアドバイザーの経験があったり、そういった方々が手を挙げられる。俗に、日本で5本の指に入る大手のコンサルタントさんしか今のところ実績がない模様です。大体、ここ数年、相当数はふえてまいりましたけども、熊本市の場合も大体4社から5社しか手を挙げなかったというふうに聞いております。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 何かぼやっとしたところでわかりづらかったですけど、アドバイザーさんが偏ったというような指導っていいですか、助言というような形はできないだろうというふうに思うんですけど、そのあたりの中立性というのはどういった確認をされるんですかね。

○委員長（田方芳信君） 南係長。

○環境センター建設課副主幹兼環境センター建設係長（南 浩一君） まず、アドバイザーの選定において、また、あと今後行います事業者選定におきましては、まず今考えてますが、事例でございますけども、資本提携、そういったものがない会社が応募しなさいというような形になってますので、協力会社じゃないところがまず今回の八代市の本当の事業者の中では手を挙げてくるだろうと。それで、アドバイザーが、中立性ということでございますんで、あとはもう一つ、——そういった形で、まあ今後、関係がない事業者さんがということの条件づけをしたいと思っております。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。簡潔に、済みません。アドバイザーは、だれがだれに指導されるんですかね。指導ちゅうか、助言ていうの。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。アドバイスの内容ですが、相手先ですが、八代市と、それからこの事業者選定委員会における会議の資料作成を行いますので、まず八代市には、この実施方針のお手伝いをしていただきます。八代市が何をやりたいか、どういうものを建てたいか、どういう運営をしたいか、どういうリスクをしょうのか、そういったことのアドバイス、それから決定ですね、そういったことを協議してまいります。

それから、この委員会におきましては、委員会の最後に提案に対する評価というのがあります。この評価基準を、要するに点数づけのための評価基準を決めることも、このアドバイスの業務内容に入ってまいります。各会議ごとの資料も作成してまいります。

ですので、お金の面、運営の面、それから建設の面、それからリスク分担の面、そういったものを、そういうチームをつくってこられてるというふうにはほかの自治体では聞いておりません。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） 何か、聞くだけ、何かだんだんわからぬごっとなってきよっとですけど、アドバイザー業務委託の、この資料の枠の中にですね、本市の意向を踏まえという部分がありますが、この意向というのは何を示すんですか。

○委員長（田方芳信君） 豊田主査。

○環境センター建設課主査（豊田浩市郎君）

はい。アドバイザー業務委託、お尋ねの件ですけど、大倉委員言われた、だれにアドバイスするのかと言われるのは、アドバイザー業務委託の受注先というのは市にアドバイス、あくまで公共側のアドバイザーということで認識していただいていると思います。

この中で、具体的に市の意向を業者さんが、今から実施方針、要求水準書をつくっていく中で反映していくんですけど、市の方針というのは、選定委員会で掲げておりました4つの基本方針が大きな柱、これを実際に実施方針、要求水準書の中に反映させていくと。あくまで事業者選定は公平公正で、その方針を踏まえて事業者選定においては公平公正な選定が行えるように、アドバイザーの受託者についてアドバイスをしていただいて、そういう支援を受けるものであります。

以上です。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。市にアドバイスをすることですが、私は逆に、市は方針を持つとかなければいけないんじゃないかなというふうに思ってるんですけどよね。

ちょっと、そのアドバイスという部分がどの程度の内容なのかというのがちょっとわかりにくいところがありますので、この後、随時、ちょっと担当課のほうにはお聞きをしていきたいと思いますが、一番懸念されるのがですね、処理方式を外部委員さんに選定をしていただいたと。ここでは、恐らく行政のほうは処理方式の提言は1つに絞ってくるんじゃないかという想定があったと思うんですけど、で、今回の総合評価型一般競争入札で評価をされていく中でですよ、方式が絞りきれることがあるのかというのが1つひっかかっんですけど、ああ、こっちも、こっちもよかねというような状況になった場合、どういうふうに進められるんですかね。その部分は検討されてますか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。処理方式を決めます処理システム検討委員会のときは、確かにこの2方式3機種がほぼ同点でした。これは出口の問題で、先ほどから申し上げてます焼却灰や溶融スラグの維持管理費や、それから処理方法、処理先について、非常に両方ともメリットもデメリットもあるということから、2方式3機種というのがほぼ同点に並んでしまいました。

今後は、この業者を決めるときに、そういうふうな決めかねるんじゃないかというような御心配なんですけど、この総合評価の場合は、提案に対する評価で、価格面と非価格面とで、1人持ち点を決めて、委員さんに1人100点なら100点を持っていただきまして、合計点数で第1位を、価格面も入った合計点数で第1位を決めますので、それと20年分の維持管理費まで含めて契約を行いますので、第1位が1つにもう絞られてくるというふうに考えております。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。その中に、現在市民が行っている分別、この取り組みはどういうふうな評価をされる方針でしょうか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 基本的には、昨年の一般質問でもお答えしましたとおり、21分別のままで、このまま分別数につきましては市民の方に協力をいただきたいと考えております。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。なかなかですね、うまく私自身つかめとらぬとですけども、やっぱりこういう施設を決定していくという部分では、やっぱり行政のほうの主導というのがですね、必要になってくるんだらうというふうに私は思ってます。

だけん、そういう点からも、やっぱり知識をやっぱりたくさん習得していただいて、逆にアドバイザーを指導するぐらいのですね、勉強をして、選定には臨んでいただきたいなあというふうに思っておりますので、よろしく願いします。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（堀口 晃君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） はい、堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。なければ、2つほどお聞きをしたいと思います。

今説明である程度理解をさせていただいたところなんですけど、今回については、業者を選定する部分についての総合評価落札方式というのが1つと、それと、アドバイザーを選択するというふうなプロポーザル方式を選びますよという、この2つの今御説明だったんだらうと。

アドバイザーの選択についてということ、1つお伺いなんですけど、このアドバイザーを提案型ということでおっしゃったんですけど、どういう形でそれを選ばれるのか、だれがアドバイザーを選ばれるのか。先ほど、全国には四、五社あるというふうなお話だったんですけど、じゃ、その四、五社が提案をされた分をだれが判断をして、そこを選ぶのかというのはどうなってるんですか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） 委員さんにつきましては、本庁の全部の次長さん、次長級の方を9名、各部から1名ずつ出させていただきまして、委員になっていただきまして、プロポーザル方式の事業提案に対しまして評価をしていただくと。持ち点につきましてはこれから決めてまいりますけど、評価基準をこれから審議していただきまして、大体3回の会議を経て、3回目にその事業提案を行っていただいて、評価基準をもとに評価していただくと。そして、最適業者を1社決めるというふうにご考えております。

この場合、価格面は予算が3800万円ですので、この価格がそのまま表示されることとなります。そこと、最後に最適者の業者さんと随意契約というふうになってまいります。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。本庁の次長9名でそのアドバイザーを選ぶってことなんですけど、この方たちは、このアドバイザーに対してですね、専門家なのかどうかという、非常に、申しわけないんですけども、選ぶのですね、適任者なのかどうか。先ほど言いましたように、弁護士であったりとか税理士であったりとかっていう方々が、そのアドバイザー

になって御提案をされるわけですよ。そのときに、次長の方々がそれだけやっば勉強されて、本当にこのアドバイザーがいいんだということですね、それぞれがやっば、9人の方々が勉強していらっしやらないといけないと思うんですが、その辺はどういうふうに御認識をされてますか。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。もうおっしゃるとおり、次長さんたちも御不安がありました。しかし、中身はそちらの方面ではございませんで、我々の最終目標は、環境センターの建設事業者を決めるのが最終目標です。で、この方々が何を、コンサルタントが提案をされるかといいますと、ある一定の実績と、ある一定の技術士の数ですね、そういった数、それから法律に関してはこういう弁護士事務所に頼みますとかで、そういうチームで来られます。じゃ、何を提案されるかといいますと、総合評価委員会の会議の運営はこうします、それから、工事はこういう短期間の、工期を縮めることができますよとか、それからいろんな各種情報を持ってこられます。要するに、建設事業者を最終的に決めるための、私たちはこういうコンサルティングができますという説明が主だそうです。

ですから、法律の話であるとか、そういったことではございませんで、その会社が、私たちが最終的に建設事業者を決めるためにどういうふうにしたらスムーズに決まるか、どういうリスク分担が考えられるか、そういったのを想定していろんな資料をつくってまいります。ですから、あくまでもコンサルタントの業務内容といたしますよりも、この建設事業者を決めるためのアドバイスをするやり方をプレゼンされるというようなことを9人の次長さんに評価してい

ただくと。

ですから、会社の考え方、それから会議の進め方、そういったものを主に評価していくことになろうかと考えております。それから、地元企業をどういうふうにしたら建設工事に携わらせることができるか、それからDBO方式の管理エリアはどこまでなのか、単独でつくる建物はあるのか、いろんなことが今後考えられます。そういったことに対してのいろんな、もうそれこそ多方面からのアドバイスをさせていただくことになりますので、その考え方を、会社としての考え方を9人の次長さんに評価させていただくということになろうかと思えます。

○委員（堀口 晃君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。心配するのはですね、提案されたことを理解していない方がいらっしやったら、非常に心配するわけなんです。それについては、そちらのほうですね、ぜひ勉強会なり何なりをされてですね、対処していただきたいというふうに思っております。

それともう一つ、八代市ですね、方針というのは、アドバイザーに対して、こういう八代市の方針があります、——先ほど2方式3機種を決めるときに、それを基本にするというふうなお話だったんですが、最終的にはごみをゼロにするというふうな方針もございますよね。それについてはちゃんと決まったものがあるかどうか、で、いつ最終決定をしてアドバイザーと契約に至るのか、その辺の日程的なことと市の方針、この2つをちょっとお知らせください。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） まず、この実施方針、第1回目の会議ですが、これをことしの9月前後に開ければというふうに

今進めております。プロポーザル方式で、このコンサルタント会社を決めますのを6月の初めのころまでに決めなければ、この第1回目のこの総合評価の9月の会議が開けませんので、最短の目標ではございますが、総合評価委員会を9月ごろから始めて、来年の夏までぐらいに6回から8回の会議を経まして、総合評価の点数が出て、契約相手方が決まっていくというふうに考えております。

○委員（堀口 晃君） はい、委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。6月初めにアドバイザーを選定をしなければならぬということ、その前の段階で八代市の方針は決まっていけないですね。それはもう確実に決まってるというようなことでよろしいですか。市の方針は。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） そうではございませんで、この実施方針をアドバイザーが決まりました後に、6月から9月までの間に整理をして固めていくというふうになります。

基本的なことは、この前の処理システム検討委員会の中で、今委員がおっしゃった、要するに、焼却灰や溶融スラグを資源化していく、できるだけ埋めない方式でいくというふうな方針はもう持ってはおります。ですから、あの4つの柱は基本中の基本になるんですけども、それ以外にも決めなければいけないことがたくさんありますので、その実施方針を決めまして、その第1回目のこの実施方針の案というのをつくってまいりたいというふうに考えております。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。それじゃです

ね、そこまでの段階の中で、またこういう委員会のほうでアドバイザーを決める前の段階、次長さんが9名で決める前の段階で、また市の方針はこういうふうにやっていきますよというようなことをある程度出して、それからアドバイザーとの部分で詰めをやっていくというふうな、こういうことだろうと思うんですが、その八代市の方針をですね、もう一度、建設環境委員会には御報告される用意はございますかね。

○委員長（田方芳信君） 小橋課長。

○環境センター建設課長（小橋孝男君） はい。先ほど言いました4つの柱を中心に、ある程度もうおっしゃるとおり、固めておかないと、DBO方式の管理エリアも決まりませんので、例えば、将来用地の公園用地まで全部、DBOの管理会社にさせるのかとか、それとも地元で全部やっていくのかとか、いろんな細かいところを詰めなければいけません。それから、契約金額につきましても、そのエリア次第では大きく変わってまいります。この建物は八代市で管理する、この建物はDBOの管理会社に管理させる、もう全く違ってまいりますので、そのあたりも含めまして、早急に庁内で市として実施方針を決めてまいりたいと考えております。（委員堀口晃君「はい、わかりました」と呼ぶ）

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

○委員（堀口 晃君） はい。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で八代市環境センター建設事業の進捗状況についてを終了します。（「ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

・生活環境に関する諸問題の調査（ごみ非常事

態宣言後の状況について)

○委員長(田方芳信君) 次に、ごみ非常事態宣言後の状況について、執行部から発言の申し出がっておりますので、これを許します。

○環境部長(福田 晃君) 委員長。

○委員長(田方芳信君) 福田環境部長。

○環境部長(福田 晃君) はい。続きまして、ごみ非常事態宣言後の状況につきまして、ごみ対策課の山口課長が報告申し上げます。

また、八代生活環境事務組合へお願いしておりました一般廃棄物の焼却処理委託に関する基本的な考え方についても、回答が届いておりますので、宮川次長が説明申し上げます。

どうぞよろしく願いいたします。

○ごみ対策課長(山口 剛君) 委員長。

○委員長(田方芳信君) 山口課長。

○ごみ対策課長(山口 剛君) おはようございます。「おはようございます」と呼ぶ者あり)

ごみ対策課でございます。

それでは、ごみ非常事態宣言後の状況について御説明をさせていただきます。座って説明させていただきます。

資料のほうですけれども、ごみ非常事態宣言後の状況について、平成23年度のごみ処理状況に関する報告、それから八代生活環境事務組合とのごみ焼却処理委託に関する協議経緯についてでございます。表紙を除きまして5ページでございます。

それでは、表紙をめくっていただきまして、1ページから説明をいたします。

平成23年八代市ごみ収集運搬・処理・処分・資源化一覧でございます。

向かって左側のほうから、収集しました廃棄物の量、それから左のほうに進みますにつれ、——失礼しました。右のほうに進みますにつれて、最終処分をいたしました量を表示しております。

まず、収集しましたごみの量でございますけれども、可燃物が2万8842トン、資源物が5447トンでございます、総計の3万4289トンでございます。

可燃物につきまして、焼却対象物が3万646トンとなっております。これは、資源回収しました後、中間処理をいたしまして可燃物が発生しております。1804トン発生しておりますので、それと収集しました量と合わせまして3万646トンということになりました。

続きまして、そのうち清掃センターで焼却しました量は2万6900トン、外部処理委託をしました量が3863トンでございます。それと、前年度からの未処理分が117トンほどありましたので、あわせて処理をしております。

焼却灰等につきましては、センターから焼却しました分でございます、4671トン発生をしております。この処分につきましては、場内で発生しました残渣と合わせまして民間処分場へ4735トン、それから灰固化施設ということで地元の業者のほうに資源化を行っていただいております、そちらが133トンという結果でございます。

また、資源物でございますが、5447トン収集しましたものが可燃物と仕分けをしました残りが5403トン、うち草、樹木等外部処理委託しました量が686トンでございます。最終的に資源化といたしましたのが2912トンとなっております。

次のページをお願いいたします。

次のページは、平成23年度と22年度、また平成23年度の3月分につきまして処理の量の実績を記載をしております。

一番上の段の表ですけれども、可燃物でございます。収集量が、——一番上の表でございますが、対前年度比で3月分で16トンの増加をしております。1年間の対比で457トン増加をしております。1人1日当たりの排出量につ

きましては、対前年度3月比で9.4グラムの減少、1年間トータルで11.1グラムの増加となっております。一般・許可業者等の搬入量につきましては、3月におきまして前年度比4トンの増、1年間の合計で353トンの減少というふうになっております。1日当たりの排出量につきましても、3月比0.1トンの増、1年間で1トンの減少という実績でございました。可燃物全体におきましては、22年度と23年度、3月比で20トンの増、1年間で104トンの増となっております。

次の下の表で資源物でございますが、対3月比、前年度比で13トンの増、1年間で73トン増加となっております。1人1日当たりの排出量につきましては、3月分で2グラム、1年間で0.5グラムの減少でございました。また、一般・許可業者等の搬入量につきましては、3月前年度比で8トンの増、1年間で12トンの減少でございます。1日当たりの排出量につきましては、3月で0.2トンの増、1年間で0.1トンの減少でございました。資源物の搬入量全体につきましては、3月比で21トンの増、1年間で71トンの増となっております。

次に、処理実績でございます。

可燃物量につきましては、収集いたしました量と土曜日など直接搬入していただきました量についてでございますが、対22年度におきまして104トンの増加となっております。中間処理後の可燃物量につきましては143トンの増、合計で247トンの増となっております。

清掃センターで焼却しました量と外部委託しました量でございますが、23年度2万6900トンを清掃センターで焼却しております、対前年度比643トンの減少となっております。外部委託をしました量につきましては、平成23年度で3863トンでございまして、合わせて3万763トンの焼却を行っております。

す。ピットの残量につきましては、3月末現在で381トンとなっております。

焼却炉の運転状況でございますが、1号炉が3月の実績で1066トン、2号炉で832トンでございます。合計1898トンを焼却しております。23年度の累計でございますが、1号、2号炉合わせまして2万6900トンでございました。運転日数でございますが、3月の実績でございますが、1号炉が28日、2号炉が22日でございます。累計しまして、1号炉が333日、2号炉が334日運転をしております。1日当たりの焼却量につきましては、1号炉が3月で38トン、2号炉38トンで、76トンの実績でございました。23年度の、—これは累計としておりますが、平均で81トンを1号、2号炉で焼却をしております。

外部委託しました実績でございますが、3月で611.65トン、金額にいたしまして2755万4833円となっております。23年度の累計といたしまして3863.21トン、金額にいたしまして1億7403万7616円でございます。

それから、日曜の資源の日の回収状況でございますけれども、3月で可燃、不燃合わせまして7.32トン、6月から3月の累計といたしまして71.94トンを収集いたしております。それから、利用者の状況でございますけれども、3月に実施しましたアンケートでは、初めてが52名、リピーターということで151名利用されております。合計203名でございました。6月から3月につきましては、合計で1929名の方が延べ利用をされております。1件当たりの持ち込み量での平均でございますが、可燃、不燃合わせまして36.1キログラムが3月実績、6月から3月までの平均でございますが、こちらのほうで37.3トンという実績でございます。（「キログラム」と呼ぶ者あり）失礼しました。37.3キログラムでござ

ございます。失礼しました。

次をめぐっていただくようお願いいたします。

グラフを2つ表示しております。

上の段でございますが、こちらのほうは非常事態宣言をいたしました後、1日1人当たりの家庭ごみの排出量をグラフにしております。非常事態宣言をします前の平成22年6月に516グラムございましたものが、平成24年3月末で478グラムという実績でございます。途中、上がり下がりがかなりございます。季節変動、そういうものも考えられるかと思えますけど、実績として、このような状況になってございます。

それから、下のグラフでございますが、ごみ袋を有料化いたしました後の1人1日当たりの排出量の推移をグラフ化しております。平成10年にごみ袋を有料化した後、11年に急激に下がっておる状況でございますが、その後、緩やかに増加、それから非常事態宣言をいたしました昨年度ぐらいには若干下がり傾向が見られておりますが、23年度につきましては、先ほど報告いたしましたとおり、少し上昇化ごみということでございます。

次に、4ページ目でございます。

こちらは、清掃センターの焼却施設の1年間の稼働状況でございます。左側から稼働日数としまして、1号炉、2号炉、こちらの1号炉、2号炉につきましては時間で表示をさせていただいております。総計で1号炉7991時間、2号炉につきましては8019時間の運転をしております。月計のところは、こちらの時間を24時間換算で表示をさせていただいております。24時間換算で合計の334日の運転となっております。

焼却量につきましては、1号炉、2号炉、それぞれ1万3812トン、1万3088トンとなっております。2万6900トンを合わせ

て焼却をしております。

1日当たりの焼却量でございますが、1号炉が平均41トン、2号炉が39トンでございます。1号炉、2号炉合わせまして年間で80トンを平均で焼却をしております。年度当初、4月から6月ぐらいまで88トンぐらいの焼却を実施してございましたけれども、灰質が非常に悪い状況ございましたので、7月から灰質の改良運転ということで、焼却量を下げて運転をしております。また、11月に85トンというふうに表示しておりますけれども、こちらは最大負荷量を確認を行うというようなことで、現状の設備の能力を認識するために焼却量を増加をさせて実験を行ったものでございます。以降は、約79トンから75トンというところで運転をしております。本年4月につきましては約77トンの運転をしておるところでございます。

○環境部次長（宮川正則君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 宮川環境部次長。

○環境部次長（宮川正則君） それでは、私のほうから、八代生活環境事務組合とのごみ処理委託に関する協議経緯につきまして御説明をさせていただきます。それでは、座って説明をさせていただきます。

資料の5ページ目でございます。

生活環境事務組合とは、これまで口頭、それから文書での協議と行ってまいりましたけれども、文書についてやりとりした内容について今回御説明をさせていただきます。

文書については、八代市から都合3回、組合のほうに照会をしております。組合もそれぞれ回答をいただいております。

それではまず最初に、一番上の23年4月18日に文書を発しました一般廃棄物の焼却処理に関する料金等についての照会ということなんですけれども、これにつきましては、生活環境事務組合のクリーンセンターで隣接する龍峯校区

で発生するごみの一部について燃やしていただけないかと、引き受けていただけないかというようなことをですね、お願いしたものでございます。

組合からの回答につきましては、前記の照会につきましては、正式なごみ処理依頼ではないということで、改めて正式なごみ処理依頼があった後、受け入れる量や価格に関して組合の議会及び地元との協議をするというような内容でございました。

次に、同年の8月5日、一般廃棄物の焼却処理委託について依頼ということで、先ほどの内容が正式じゃないということでしたので、正式な文書の依頼をしております。これにつきましては、量につきましては23年の11月1日から25年の3月31日、高度排ガス処理の施設改良が終わるまでの間ということでございますけれども、この間、1日当たりごみ収集車1台分、月でいきますと40トン、それから期間でいきますと680トンのごみ処理をお願いしたところでございます。

これにつきまして組合からは、正副管理者や組合議会全員協議会等での意見集約を図っており、結論が出次第、回答できる旨の内容でございました。

ただ、これについては、その後回答がございませんでしたので、本年1月24日、八代市としましても、いつまでもですね、長く協議することは適当ではないというように考えておりましたので、最終的なですね、回答をいただきたいということで、八代市から一般廃棄物の焼却処理に関する基本的な考え方についてということで、八代市として事務組合へお願いしたいこと、そういったのをですね、取りまとめております。お願いした内容としましては、まず、委託期間が合意の日から最長で29年の6月まで、前回8月については24年度いっぱいということでお願いをしておりましたけれども、期間

を延ばしましたのは、本年の1月の16日でしたか、八代市の市議会の全員協議会の中で、排ガス処理の設備改良後もですね、どうしても燃やせないごみが残るということですね、その残ることがわかりましたので、その分も含めたところで今回これで依頼をしております。予定量としましては1日当たりごみ収集車1台分、月40トン、年間480トンということで、これは前回までのお願いした量と同じでございます。次に、焼却灰の処分でございますけれども、焼却灰については、八代市がお願いした燃えるごみの焼却灰相当については、すべて八代市で引き取るということでございます。次に、焼却経費の算定でございますけれども、こちらについてはクリーンセンターの維持管理費相当額でお願いしたいということでございます。最後に、八代市が組合に委託する場合の委託価格の上限ということでお示しをさせていただきました。価格としては1トン当たり4万円ということで、これは当時、菊池市にお願いしておりました外部焼却委託、民間事業者、ここの焼却費、それからそこまでの収集運搬費、それと八代市が引き取る焼却灰の処分費、こういったものを考慮させていただいて4万円という形でお示しをさせていただきました。

これについての組合からの回答ですが、これは本年3月16日に参っております。組合としては、受託単価を決定したのではないということ、今後八代市と協議していく上での一つの目安として、この回答の中では処理単価及びその積算の考え方を示したものであるというような内容でございます。

なお、クリーンセンターも建設から13年目を迎えておりましたので、処理能力が低下をしているということ、それから、処理量の低下にあわせて、1日2炉8時間運転のほか、——これは計画時の運転です、1日2炉8時間というのは。それに加え、能力が不足分については

2炉16時間運転や片炉の16時間運転ということで対応しているというような内容でございます。

平成23年度段階におきますごみ処理経費は、組合としてはトン当たり3万5580円ということでお示しをされております。ただし、これはあくまでも、これまでの維持管理費でございます。今後八代市が新たにごみ処理をお願いするということになりますと、現状でさえ約95日間の計画以外の時間外の運転をしているということでございますので、それに対応するためには、さらに焼却炉の基幹整備費としてトン当たり1万6000円程度の加算が必要だというような内容でございます。

この資料につきましては、添付をしております。

添付資料の中に、先ほど申し上げました3月16日の組合からの回答文書が添付をしております。そのですね、3枚目ですかね、3枚目に別添えという形でございますけれども、別添えで、クリーンセンター焼却施設の運転状況と整備の見込みということで記載をされております。この中で、先ほど申し上げました、計画以外の運転につきましては中ほどに書いてございまして、その一番下のをよろしいでしょうか。米印のところがございます。小さい文字で書いてございますけれども、この中でいきますと、2炉8時間運転を行った日の1日平均焼却量が38.87トン、2炉16時間運転を行った日の1日平均が58.17トンということでございますので、これからしますと、八代市が仮にお願いするということになりますと、さらに25日間また16時間運転しなきゃいけないというふうなものでございます。

そういったことで、組合としては現状では八代市から受け入れしても、相応のですね、基幹改良、こういったものを行うとともに、必要な人件費、そういったものですね、さらにアッ

プするであろうというような考え方を示されております。

ちなみにですね、今回組合が予定されております改良費、これはあくまでも施工メーカーでございます川崎技研がですね、提案という形で出したものでございますので、これがそのままですね、確実に所要な経費というものでございませぬ。あくまでも一つの目安としてお聞きいただければと思います。

それを見ますと、八代市が例えば5年間4800トンですね、ごみをお願いしますと、累計で2400トンお願いすることになります。それを現在、民間のごみ焼却施設、ここに出しておりますのが今4万5050円でございます。これからいきますと、民間に出した場合には1億8000万ちょい、——済みませぬ、1億812万ぐらいになります。これが、実際今度は組合のほうの基幹改良、それだけで約1億7000万ぐらい現段階で、あくまで見込みですけども、そういったものですね、見込まれるというようなですね、回答の内容になっております。

これだけを単純に比較できるもんじゃございませぬけれども、現段階のですね、我々が持っている手元の資料から、ということで判断しますと、民間に出したほうが現段階では八代市としては経済的ということ。

それからあともう一点、今度は現状の生活環境事務組合の施設、あそこについては、宮原町——旧宮原町ですね、の梶地区でございますけれども、その梶地区の住民の皆さん方と実際、今後施設をつくらないということで合意をいただくとともに、施設全体の計画についてもですね、協定、覚書等でですね、それぞれ住民の方々に理解をいただいておりますので、今後八代市が新たにごみを持ち込むということになれば、今度は一たん合意ができましたと、八代市と組合が合意ができましたと、今度はそれを実

際実行するためには、また地元に対してですね、御説明する必要があるということになりますので、今後、実際委託を始めるという場合に付きましても、協議期間が相当かかるんじゃないかということは予想されております。

以上でございます。

○委員長（田方芳信君） 本件について、何か質疑、御意見等はありませんか。

○委員（中村和美君） いいですか。

○委員長（田方芳信君） 中村委員。

○委員（中村和美君） 要望ですけど、要するに、宮原のほうも八代クリーンセンターかな、ここも対しても、敷地が決まるとし、限られとっし、八代から持っていくちゅうは御迷惑じゃないかなというのはわかるとるわけですね。ですから、反対に言えば、もう民間にこのままなるだけ出して、そして、——なるだけちゅうのは、ごみの量をまず減らすちゅうことが市民のやるべきことであるが、それでもできないことはできない、そういうときは民間に委託をし、そして、なるべく早くこの清掃センターをつくるのが先決じゃないだろうかなというふうに思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。今、菊地のほうに持っていつている、九州産廃をお願いしてる、民間の。いつまでこれが可能なのかというのは目安というのはございますか。

○委員長（田方芳信君） 宮川次長。

○環境部次長（宮川正則君） はい。菊地の最終処分場、九州産廃ですけども、ここについては、県の許可については十分余裕がございますけども、ただ地元とですね、協定が結んでございまして、その協定書が25年の11月ということで一たんですね、線引きがなされておしま

す。その線引きについてですね、有効性について今提訴がなされておりますので、八代市としてですね、今ここで、いろいろそれを判断することは差し控えさせていただきたいと思いません。

○委員（堀口 晃君） 委員長。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。初めて聞いたところなんですけど、25年の11月という。もしの話は余りできないという話なんですけど、そういう持っていくことはできないということも想定をですね、やはり取り組まないといけなかなとは思いますが、その辺については何か手だてを今考えてる部分はございますか。

○委員長（田方芳信君） 宮川次長。

○環境部次長（宮川正則君） はい。もう昨年からです、私どもも菊地の問題もわかっておりましたし、あともう一方では、何とかですね、もうちょっと安くならぬかということも含めてですね、九州県内または中国、四国までですね、調査をしてみました。その結果、山口県ですね、萩市の民間事業者が、八代市が菊地に出しておった価格とですね、同価格でできるというようなですね、こちらのほうに対しての提案がございましたので、一昨年、24年度もですね、——あ、23年度も一部お願いをしております。24年度についてはですね、4月から、4月の6日からでしたかね、九州産廃が炉が停止しましたもんですから、改修のためですね。その改修の期間、5月ですね、連休明けまで、その山口県の業者に九州産廃と同価格でですね、今お願いしております。

今後、将来的にもですね、地元の萩市のお話等々をですね、総合しますと、当分の間、八代市のごみの引き受けは可能だということで、我々は今聞いております。

○委員（堀口 晃君） はい。

○委員長（田方芳信君） 堀口委員。

○委員（堀口 晃君） はい。九州管内には同じ値段ではないというような状況があるわけですよ。本当、頑張っていたきたいなと思っています。どうしようもなかですよ。

○委員長（田方芳信君） 増田委員。

○委員（増田一喜君） 建設環境委員会の資料の5ページか何かにありますけどね、一応、事務組合からの回答では、大体処理経費が、23年度ですね、には3万5580円、トン当たりですね、が、これに今度は焼却炉の基幹整備費としてまた1万6000円ほど乗るといことですよ。こっちの、今度は、何ですかね、これは、処理委託に関する基本的な考え方ちゅう、この資料の中で、整備の見込みちゅうところであるのに、クリーンセンターは運転開始から13年を経過し、一般的に基幹的整備を行う目安とされる時期、運転開始から15年に差しかかっていますということですよ。だから、この大方1万6000円ぐらいが上乗せされると。今まで使ってなかったけれども、今からこれを交渉するとなれば、その分まで八代市が上乗せして、お手伝いして焼却せにゃいけぬちゅう状態になりますよね。今現在はクリーンセンターの焼却料、単なる焼却料よりも、料金よりも、菊地のほうですかね、あっちのほうに出したほうが、要するに経済的には安いという判断のもとにやとられますね。もちろん、今はクリーンセンター、それ受け入れられないという形ですけども。だけど、もし受け入れるにしたって、金銭的には今でも高い、なおかつ基幹整備費要りますけんで、そこまで上乗せしてされるちゅうと、八代市にとって非常な負担になってですよ。それだったら、菊地のほうがいけるちゅうんだったら、そのままいかれたほうが経済的には物すごく市としても助かるんじゃないかなと。その分にかかる費用は、今度、環境センターのほうに向けて蓄えていったほうがずっと効果があるんじゃないかなちゅう気はす

るんですけども、そこらあたりの考え方ちゅうのは、市のほうはどういうふうに思われていますか。

○委員長（田方芳信君） 宮川次長。

○環境部次長（宮川正則君） はい。市町村合併をしました後、平成17年度から組合が行っております事業、これについてはそれぞれですね、所管課が入りまして、予算の協議でありますとか、決算の内容等々についてですね、説明を受け、八代市としての意見はこれまでもですね、述べさせていただきました。その中で、ごみ処理につきましては、八代市が環境センターを建設するという事で、八代市としては極力、もう28年度末という線引きがございますので、それまでは八代市としては極力ですね、新たな投資、ごみ処理施設に対する投資ですね、そういったものは控えたいというようなことはですね、申し出ておりますし、これは組合議会でもですね、そういった形のいろんなですね、議論がなされてるとも聞いております。

そういったことで、現段階です、さらに1万6000円、トン当たり要るといことになってきますと、それについてはですね、どこまで抑えられるかということも検討しなきゃいけませんけども、新たな投資、つまり八代市が手を引いた後にそのまま改修後のものが使えるということになってきますと、八代市が手を引いた後にですね、最終的なごみ処理についての事業の精算がありますけども、その中でいろいろですね、それぞれ今後の負担、決められると思いますけども、そこまでなるべく八代市としてはですね、新たな負担を避けるということが賢明かなとは話をしてきております。

以上です。

○委員長（田方芳信君） よろしいですか。

ほかにありませんか。

○委員（大倉裕一君） はい。

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。長く生活環境と議論をされてきて、ようやく市の期待に沿えるような回答が出てきたのかなというところなんですけど、この結果をもって、市としてはどうされるんですか。今後も協議を進めていかれるのか、もしくはもうこれで見えたかなと、生活環境のクリーンセンターのほうに依頼するものではないなというような判断を持たれたのか、その点をどのようにお考えですか。

○委員長（田方芳信君） 宮川次長。

○環境部次長（宮川正則君） 私どもとしましては、逆に新たなですね、門戸が開けてくればですね、またそれで対応したいと思っております。

ただ現段階では、八代市として、まずはコストという面から考えてですね、高いということ、それからもう一つ、今度は実際お願いするにしても、今度は行政間ではですね、話がついたとしても、今度、対住民がございまして、住民の皆さん方に対してですね、説明をするということになってきますと、環境センター建設でも相当八代市ですね、住民説明会でいろんなですね、住民の方々の御意見を伺いながらですね、対応をとってきましてけども、今後、楯地区の住民の皆さん方からですね、直接お話をしますと、また新たないろいろなですね、課題も浮き上がってくるかもしれません。そういった課題に対応していくということになりますと、また時間がかかりますので、八代市としては、現段階では、ここで組合とのですね、協議は終えたいというふうに考えております。（「それが賢明」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） 大倉委員。

○委員（大倉裕一君） はい。その方針については理解を示したいというふうに思います。

あとですね、非常事態宣言後のごみの推移の話なんですけど、やっぱり危機意識がうまく伝わってないというのが正直なところじゃないか

なというふうに思うんですね。で、市民にごみを削減するとういうメリットが出てくるという部分をしっかりまた訴えていただきたいというふうに思います。

それとですね、クリーンセンターとのごみの受け入れの、何というか、条件というんですかね、営業日の違いとか、そういった関係がどうしても、八代市の清掃センターのほうに今負担が来ているというようなですね、お話も若干聞いたことがありますので、ぜひクリーンセンターと中北の受け入れの部分については、統一化をですね、図っていただくように取り組みを進めていただきたいというふうに思います。昨年度はゴールデンウィークか何かの長期の生ごみ回収ですかね、燃えるごみ回収については、回収が長期ないというような状況が出ないように改善をされたということではありますが、年末年始の受け入れとかですね、そのあたりがまだ違うような部分もありますし、個別の収集と1カ所に収集するというようなですね、回収の方法の違い、そういった部分もありますので、できるだけ統一化できるところは統一していただきながらですね、そして、ごみの削減もしていただくと、こういうメリットが市民の皆さんには出てくるという、再度周知を図っていただくようお願いをしときたいと思います。

○委員長（田方芳信君） ほかにありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上でごみ非常事態宣言後の状況についてを終了します。

ほかに当委員会の所管事務調査について、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（田方芳信君） なければ、以上で本日の委員会の日程は全部終了いたしました。

これをもって建設環境委員会を散会いたします

す。

(午前11時50分 閉会)

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

平成24年5月1日

建設環境委員会

委員長